

高等学校 第3学年 国語科学習指導案

指導日時：令和元年10月28日（月） 第4校時
指導学級：第3学年5組（男13名，女29名）
指導者：宮城県石巻西高等学校教諭 鈴木 涼子

1 単元名 「 作品を本質的にとらえよう － キャッチフレーズづくりを通して － 」

2 単元の目標

- (1) 古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえる。【読む能力】
- (3) 古典に用いられている語句の意味，用法及び文の構造を理解する。【知識・理解】

3 取り上げる言語活動と教材

言語活動：本文「澠池之会」のキャッチフレーズを作成する。

教材：『史記』「澠池之会」（東京書籍『新編古典B』）

4 単元観

教材は『史記』「澠池之会」を使用する。『史記』は多くの故事成語を生み出し，現代にも通じる教訓を残している。具体的事実や事象に重きを置く中国文学であるが，それを自ら抽象化し，その本質をとらえることで，人間の普遍的要素に気づき，生徒自身の人間理解と自己の人間形成に結びつけてもらいたいと考える。

本単元は，高等学校学習指導要領第6節古典Bの「3 内容（1）指導事項」の「イ 古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえること」をねらいとしてものであるが，同時に「ウ 古典を読んで，人間，社会，自然などに対する思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること」とも関連する。具体を抽象化し，ものを本質的に理解することで，さまざまなものの見方，感じ方，考え方を蓄積・内在化し，豊かな人間性を築く一助としてもらいたい。

5 生徒の実態

授業に取り組む姿勢は良好で，ペア学習・グループ学習への抵抗も少ないが，古典の学習に対する苦手意識は強い。特に文法事項については，全体的に応用できるまでの定着に至っていない。漢文については，音読・書き下し文は概ね出来るが，現代語訳や全体の読み取りとなると，句法や時代背景に関する知識が乏しく，初見においては難しい。

また，進路指導としての面接や小論文の指導を通し，物事の本質を自分なりにとらえ表現する力の不足を感じている。各教科で得た知識も羅列的に暗記する傾向にあり，他と関連づけて覚えたり，結びつけて思考することが苦手である生徒が多い。この弱点を補うためにも，ものを本質的にとらえて理解する力は必要不可欠であると考えている。

6 指導観

文法事項への苦手意識が強い生徒の実態を踏まえ，全体の読み取りについては，重要な句法に関わる部分のみ逐語訳を行い，それ以外については現代語訳を示すことでスムーズに進めたい。また，澠池の会に関わる背景知識にも触れ，断片的な作品理解にとどまらないことに注意したい。

以上を終えたところで，キャッチフレーズを作成することを手立てとし，本文の内容を自分の力で本質的にとらえる取り組みを行う。その際，以下のことに留意する。

①キャッチフレーズの作成は，本文の内容を根拠として行われるものであり，本文のどの点を伝えたいのかを明らかにして行うようにする。

②キャッチフレーズの作成・検討を行う過程で，より本文の内容が本質的に理解され，内在化がすすむように心掛ける。

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
本文の内容を構成や展開に即して的確にとらえ、その内容を本質的に理解しようとしている。	本文の内容を構成や展開に即して的確にとらえ、その内容を本質的に理解している。	読解に必要な句法を理解し、また、本文を読み味わうための背景知識を身につけている。

8 単元の指導と評価の計画（全7時間）

次	具体的な評価規準と評価方法	学習活動
1	【評価規準】 読解に必要な句法を理解している。 （知識・理解） 【評価方法】 次回以降の「小テストによる点検」	○本文を音読し、重要句法について学習する。 ・音読は、教師の音読を聞いた後、ペア読みを行い、不明な点をお互い確認し合いながら行う。 ・重要句法は、問題プリントを使用し、演習方式で行う。
2 5	【評価規準】 本文の内容を構成や展開に即して的確にとらえている。 （読む能力） 【評価方法】 「記述の点検」	○本文の読み取りを行う。 ・小テスト ・第1次に学習した内容を中心に、重要句法に関わる部分のみ現代語訳を行う。 ・背景知識も含め、全体の読み取りを行う。
6	【評価規準】 本文の内容を構成や展開に即して的確にとらえようとしている。 （関心・意欲・態度） 【評価方法】 「行動の観察」	○本文を振り返り、内容の魅力について考える。 ・本文の音読を通し、内容を振り返る。 ・本文のどの点が盛り上がりなのかを確認し、「瀧池之会」の伝えたい魅力について考える。
7 本時	【評価規準】 キャッチフレーズの作成を通して、本文の内容を本質的にとらえている。 （読む能力） 【評価方法】 「記述の分析」	○本文についてのキャッチフレーズを作成する。 ・前次にまとめたワークシートの内容をもとにキャッチフレーズを作成する。 ・グループやクラスで、本文の本質をよくとらえていると思われる作品を選考していく。

9 本時の指導

(1) 本時の目標

「瀧池之会」の内容を、本質的にとらえることができる。

(2) 本時の評価

評価の観点	評価規準 (評価方法)	評価を (A) とする 具体的な姿	努力を要する生徒 (C) への手立て
読む能力	キャッチフレーズの作成を通して、本文の内容を本質的にとらえている。 (「記述の分析」)	本文の内容を本質的にとらえ、なお、その内容が効果的に表現されている。	本文の注目した部分を確認し、その内容を抽象化させる。

(3) 学習指導上の工夫

- ・キャッチフレーズの例を挙げることで、キャッチフレーズの作成が本質的なもののとらえ方に結びつくことを確認する。
- ・本文のどの点が魅力なのかを確認することで、キャッチフレーズの作成が根拠を持って行われるようにする。
- ・キャッチフレーズの作成や、優秀なキャッチフレーズを選んでいく過程が、本文の内容を的確にとらえる機会となるようにする。

(4) 準備物

教科書、ワークシート、模造紙、マジック、磁石、プロジェクター、スクリーン

(5) 本時の学習内容

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入 7分	○本時の目標を理解する。	一斉		
	キャッチフレーズの作成を通して、本文の内容を本質的にとらえよう。			
	○キャッチフレーズの効果について理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチフレーズの例を紹介することで、キャッチフレーズの作成がものの本質をとらえる方法として有効であることを確認する。 ・見通しを持って本時の学習活動に取り組めるようにする。 	
	○本時の学習活動を理解する。			
展開 40分	○個人で「瀬池之会」のキャッチフレーズをつくる。	個人 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の伝えたい魅力（前時のワークシートより）を根拠とし、キャッチフレーズを考えさせる。 ・発表する際は、①キャッチフレーズ、②キャッチフレーズを通して伝えたい作品の魅力、③表現として工夫した点を、自分の言葉で語らせるようにする。 ・キャッチフレーズをよりよくするために検討する中で、作品への理解が深まるようにする。 ・キャッチフレーズを書いた模造紙を黒板に貼り、見比べがしやすいようにする。 ・優秀作品に選んだキャッチフレーズの良かった点についてメモをとらせ、選んだ根拠を明らかにさせる。 ・作成者の話を聞くことを通して、優れた作品ができるまでの思考過程を確認する。 	<p>【読む能力】</p> <p>「記述の分析」 (ワークシート)</p>
	○グループ内で作品を発表し、優秀作品を決める。	グループ 5分		
	○グループ内で優秀作品について検討する。	グループ 10分		
	○グループの優秀作品をクラスに発表し、クラスにおける最優秀作品を決める。	一斉 10分		
	○最優秀作品について、作成者の話を聞く。	一斉 5分		
終結 3分	○本時を振り返る。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・物事の本質をとらえることが、様々な場面で役立つことを伝える。 	

(6) ワークシート（別添）